

花の国づくり滋賀県協議会（滋賀県）

協議会構成団体： 滋賀県花き園芸協会、滋賀県生花商協会、日本フラワーデザイナー協会滋賀県支部、株式会社なにわ花いちば、京都生花株式会社、滋賀県農政水産部農業経営課

戦略品目

切り花：きく、ばら

< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- ・ 洋マムについては市場との検討により明らかとなった需要期の9月9日（重陽の節句）、11月6日（いいマムの日）および12月20日への出荷をめざした作型の実証を行った。
- ・ 洋マムについては新作型の切り花の市場性について検討を行った。

- ・ ばらについてスリップス被害低減に向けた、耕種防除であるLED光式捕虫器と薬剤防除の組み合わせ実施による被害低減の実証を行った。またスリップス被害を受けにくい品種の候補を明らかにした。

< 取組の成果 >

- ・ 洋マムの需要期出荷をめざして、穂木直挿し時期について切り花長70cm以上が100%確保できる時期を複数品種について明らかにすることができた。
- ・ 卸売市場からは切り花の品質には問題はないが、花の大きい品種については花首が曲がる可能性があることから花首を太くすることの検討をするよう助言があった。
- ・ 荷姿について、花卉保護ネットは不要で、横箱の出荷にしてほしい。その際は花卉がつぶれないよう入り本数を減らしてほしいとの要望があった。
- ・ ばらについて、LED光式捕虫器については、ハウス1棟（5,800㎡）に対し、10台の設置を行ったが、捕虫効果が当初の想定より低かったが、発生予察として防除時期の判断に活用し、適期の薬剤防除により被害を一定抑制することができた。またばら品種「ひより」はスリップスの寄生が少なかったことがわかった。



実証により得られた洋マム



花卉保護ネットを用いた出荷



LED光式捕虫器の設置

< 今後の取組予定 >

- ・ 洋マムについてはこれまでの成果の現地での実証を行い、生産者への洋マムの取組を進めるとともに、加温の作型について無加温での取組を実証する。
- ・ ばらについては、病害発生抑制に向けた資材の実証を行う。

京都府花き振興ネットワーク

協議会構成団体： 京都府花き生産組合連合会、京都生花株式会社、株式会社大原総合花き市場、京都府花商協同組合、京都府園芸商組合、京都府農業協同組合中央会、京都市、京都府

戦略品目

花壇苗：ペゴニア、マリーゴールド、ナデシコ、パンジー
切り花：バラ、千日紅、ひまわり、檜扇、ひめゆり、
花しょうぶ、らっぱ水仙、萱草、かわらなでしこ
コットンフラワー、ナルコユリ、ポピー、コギク
切り枝：桃、梅、ユーカリ、ミモザ

< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- ・ 需要期に出荷可能なコギクの品種について検討。
- ・ 新たな花きの活用方法として、ドライフラワーの生産方法を検証。
- ・ 切り枝花材の開花調整技術を確立し、新たな栽培品目として、ミモザ、ユーカリの導入試験を実施。
- ・ 花壇苗専門店やデザイナーが求める花付きの良い花壇苗の生産に向けた実証。

- ・ 複数の花芽分化調整技術による品種試験を実施し、京都での生産可能性について知見を得た。
- ・ ドライフラワー生産に適した品目、品種及び花色や乾燥方法等の技術を確立するとともに、コットンフラワー生産マニュアルを作成。
- ・ 切り枝花材の開花調整技術やミモザ、ユーカリの栽培に関する知見が得られ、戦略品目の販売金額が64%増加。
- ・ 花壇苗の各品目における施肥や灌水等の栽培技術を確立。



花菖蒲生産実証ほかにて、生育状況を確認

2 需要の拡大

- ・ 児童及びその保護者を対象に、戦略品目の花きを用いた花育を行い、若年層の新規需要の創出を目指す。
- ・ 戦略品目の展示を通じて、花きの持つ魅力や活用方法を紹介し、消費拡大を目指す。

- ・ 合計757名の児童及びその保護者が花育体験を行い、参加者へのアンケート結果より、うち38%の家庭で花育体験後の花き購入率が高くなった。
- ・ 花き小売店に、四季に応じて地元産の花きを使う意識が芽生えたほか、新たな花きの活用方法について実需者とのマッチングが進んだ。



JR京都駅での花育活動

< 今後の取組予定 >

- ・ いけばな用花材について、新たな候補品目を含めて栽培適応性及び経済性を引き続き検証し、得られた栽培技術の普及及び生産拡大を行う。
- ・ ドライフラワーの活用方法について、ワークショップ等を通じて消費者に情報発信を行い、さらなる需販路拡大のため、実需者とのマッチングを行う。

大阪府花き振興協議会（大阪府）

協議会構成団体：大阪府花き園芸連合会、大阪生花商業協同組合、関西花き事業協同組合、大阪園芸商組合、大阪府地方卸売市場協会、なにわ花いちば、西日本花き、JF兵庫県生花、JF鶴見花き、花キュービット大阪連合支部、日本ハンギングバスケット協会、日本フラワーデザイナー協会大阪支部、国際花とみどりのセラピー協会、大阪生花商業協同組合技能士会、大阪鶴見フラワーセンター、大阪府環境農林水産部農政室・流通対策室

戦略品目

花壇用苗もの：ペンタス、アングロニア、千日紅、ビンカ、コリウス、インパチェンス

< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

・2025年大阪万博での花壇苗の利用促進に向け、会場となるベイエリアを見据えて耐塩性と耐暑性を有する有望品種の選定に向けた栽培試験を実施。

・万博会場付近の試験地をトライアルガーデン（大阪市）と位置づけ、戦略品目にその他品目を加えた17品目50品種の花壇苗を栽培するとともに、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所内（羽曳野市）において、プランターを用いた耐塩性、耐暑性試験を実施。

- ・各品目の耐塩性および耐暑性を把握。
- ・高温期の開花不良や病害虫の発生を把握。

3 需要の拡大

- ・市場関係者への花壇苗の耐暑性・耐塩性データ提示
- ・商業施設においてイベントを開催し、一般府民への花の展示と配布

< 取組の成果 >

・トライアルガーデンでは8月5日に各品目を定植し、以後、10月中旬までに計6回の生育調査を実施。
・令和2年8月は直近10年で最も高温で推移したものの、インパチェンスの立ち枯れと千日紅の食害を除いて、全ての品目で生育は順調であった。海岸からすぐの位置に設置したが、塩害の様子も見られなかった。

・大阪府立環境農林水産総合研究所内の試験では、アスファルト面を用いてプランター栽培を実施し、高温耐性評価を行うとともに、3%食塩水を葉面散布して、耐塩性を調査。
・その結果、ビンカやペチュニアは高温開花性が高い一方、トレニアやユーフォルビアでは開花抑制が認められ、耐塩性ではアングロニアのように痛みが大きい品目があった一方、ペチュニアのように全く影響を受けなかった品目も見られるなど、各品目の特徴を把握することができた。

- ・高温期の花壇苗利用場面における特性把握はこれまで資料がほとんどなく、市場・流通関係者からのデータ公開、今後の品目追加の要望が高かった。
- ・花きの展示・配布に関連した府民からの積極的なSNS投稿が認められ、「花をもらった気持ち」についての情報収集ツールとしての有効性が高かった。



栽培試験の様子



塩水処理による葉枯れ症状
(左：塩水処理、右：無処理)

< 今後の取組予定 >

- ・花壇苗の耐塩性、耐暑性試験はR3年度に再試験を行い、定植時期を早めて気象条件の違いによる生育、開花、病害虫発生状況の違いを把握するとともに、新たな品種を追加してデータの蓄積に務める
- ・引き続き花の展示・配布による府民の反応を把握して、販売戦略に生かす。